C 2　児童・生徒の生活意識（秋田調査第17報）— 都市と山村（C町）の比較調査から —

大澤ゆ大家政　○千羽喜代子，平井信義，大場幸夫，中村悦子，松本寿昭
川辺恵子

目的：身辺生活は都市の児童・生徒並みになっていても，生活世界の狭い秋田山村C町の児童・生徒の生活意識には，何らかの特徴があるものと考え，都市の児童・生徒との比較調査から，その実態を把握し，生活指導に寄与する手がかりを得ることを目的とした。

対象：秋田山村C町の小学校4年生から中学校3年生 740名，東京都小平市の公立小学校4年生から中学校3年生 1213名の男女児を対象とした。

方法：両地域ともに，6項目から成る同一質問紙を施行した。その6項目は，思春期における悩みの調査から，精神発達に関する発達的変化が明らかに示された，母親・父親・友だち・異性の友だちとの関係，毎日の生活態度，勉強への態度である。これら各項目は発達段階として評定できる4つの選択肢を設け，その選択理由の記述を依頼した。

結果：

①各質問項目ごとに，両地域間の比較を行ったところ，4つの選択肢の頻数分布に特徴が認められる。すなわち，都市の児童・生徒の分布は，学年の増加につれて成熟傾向にひかう選択肢に移行するものが多いのに対して，C町の児童・生徒では，このような成熟傾向がはっきりと認められない。

②選択肢ごとに自由記述された内容の比較から，日常の生活での父・母・友人たちとの人間関係や生活態度に関して，具体的内容には共通な部分もあるが，現実認識，批判，自己表現では都市部が優り，C町の児童・生徒の問題意識は弱い。生活体験感情との関連を明らかにしたい。